

著者は、アメリカの大学院で仏教の研鑽を深めた僧侶であり、仏教関係の通訳や翻訳の仕事もしている。

本書は、「いただきます」「よろしくお願ひします」「あいさつの言葉に隠された温かな思い）、

「すみません」「せっかく」（何気なく使う言葉に含まれる「和」の心）、「ご縁」「おかげさまで」（日本人の心に根ざした言葉、「合掌」「風情がある」（日本文化に育まれた奥深い言葉）など、24の言葉について、英訳

と留学でのエピソード等とともに、英語に訳せない理由、つまり日本語でしか表すことができない「心」について筆者の思いが綴られている。

—OC総会のプレゼンで使用された「おもてなし」は、「To take goodcare of another's heart.」（相手の「心」を大切にすること）



大來尚順 著

アルファポリス 1296円  
☎03-6277-1602

## 訳せない日本語

日本人の言葉と心

「To know another's feeling/ mind/intentions.」（相手の気持ちを知る）と表現している。また、「大丈夫」という言葉は元々、中国語の「丈夫」（成年男子）に「大」が付いて「Grate man」（立派な男性）という名詞や、形容詞や副詞としての「I am fine」（元気でず）「I am okay.」（平気です）、「No problem.」（問題ありません）等で見られること、さらにサンスクリット語や『総合佛教大辞典』から、仏教用語では「菩薩」を意味することを紹介し、「大丈夫」を「The Buddhist path is the only one that we can rely on.」（私たちがの拠りどころとなる唯一のことは仏道である）」と訳し、背景にある言葉の歴史にも言及している。

言語と文化は表裏一体の関係だと言われている。言葉を学習している方にはお勧めの1冊である。

（愛知教育大学教授・高橋美由紀）